＝　病院の理念　＝
人間の尊厳と患者の権利を守り、安全・安心の医療、差別のない医療、納得の医療を患者様や地域の方々とともに目指します。

東葛の健康

№ 464　2023年 4月号
〔毎月５日発行 定価１部20円〕
発行　東京勤労者医療会東葛病院
院長　井上　均
〒270-0153　千葉県流山市中102-1
TEL 04（7159）1011㈹
FAX 04（7158）9202
http://www.tokatsu-hp.com/services/out/organization/

経済発展と環境保全の狭間で、福島に続く水俣病が終わらない

東葛の医療
水俣病

神経専門医も知らない事実
メチル水銀が脳神経細胞を間引いている

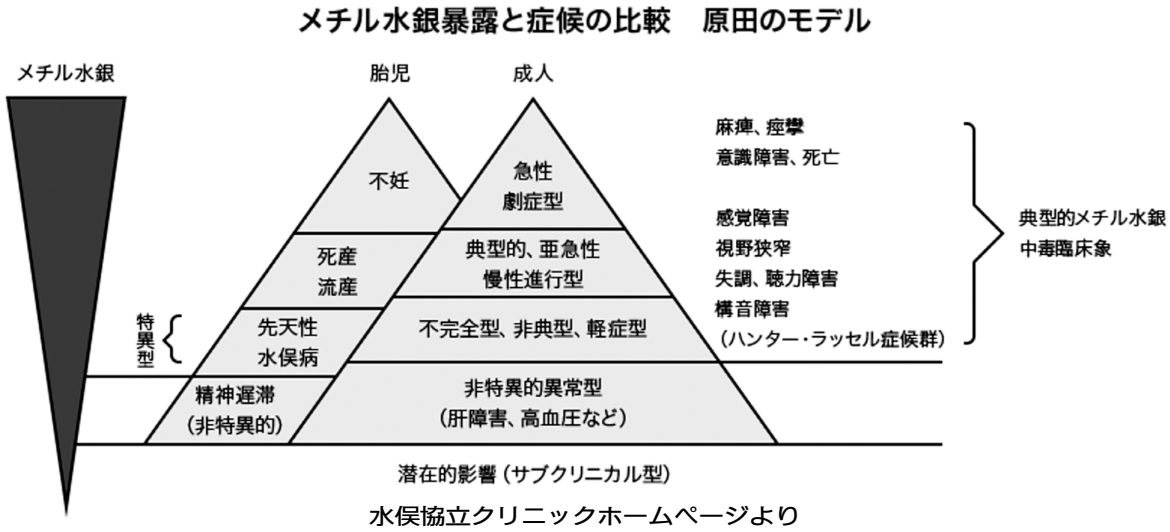
戸倉直実医師

今号は、東葛病院付属診療所所長の戸倉直実医師が水俣病についてお話しします。（編集部）

今も続く水銀汚染

2009年、私は不知火海を初めて訪れました。鹿児島県と隣接する熊本県の静かな漁村にもたらされた「苦海浄土」が今も続いていることに私はまだ気づいていませんでした。

今から70年前に不知火海がメチル水銀で汚染され公害「水俣病」が発生したことを知らない人はいないでしょう。しかし、メチル水銀汚染は今なお世界中で人々を苦しめています。メチル水銀は分解されず、海底に蓄積されマグロなどに濃縮されています。さらにメチル水銀と同様の分解されない様々な放射性元素・化学物質を人類は放出し自然界に蓄積させ続けています。水俣病は人と自然の関係を知ることの入り口でした。



水俣協立クリニックホームページより

患者さんとの出会い

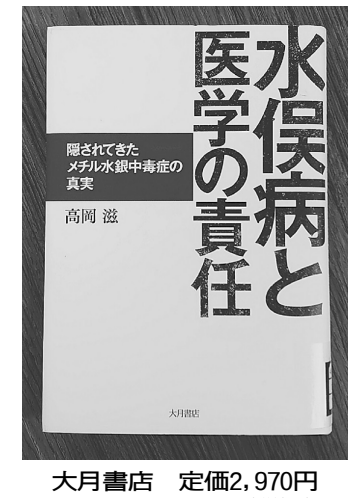
2009年第2回全日本民医連水俣病大検診のため、水俣の高岡医師から電話があり「診察が必要だから来てほしい。国の特別措置法で診断医は神経内科専門医と指定されたので力を貸してほしい。」これが慢性期のメチル水銀中毒症との出会いとなりました。

そこで、初めて見る「全身性感覚障害」患者。「骨折したのにあまり痛くないので発見が遅れた」と車椅子で受診した人がいました。「看護師だけど実は脈を触れてもわからないので苦労した。」「画鋲が足の裏に刺さっても痛くなくて血を見て気づいた。」など信じられない症状の人が来ていました。その方たちはそれがメチル水銀中毒の症状だと思っていませんでした。

封印されてきた病

その後、首都圏での100人を超える検診の後、神経内科関東地方会で「首都圏在住のメチル水銀摂取者の病像」として、四肢末梢優位の全身性感覚障害を報告しました。質問があり「どうやって詐病と見分けたのですか」と聞かれました。水俣病患者は保証金目当てでうそをついているかもしれないと判断されることがあります。そのような質問を想定していなかったので絶句したその時、会場から手が上がり、「今の質問は不適当だと思います。診察すればわかります。」という救いの声があがりました。声の主は佐藤猛医師で、順天堂神経内科で指導して下さった先生でした。

佐藤先生は元新潟大学におられ、第2水俣病の研究をされていた数少ない医師だったのです。水俣病研究を中断したことを悔いておられ、残りの人生で役に立てることがあれば協力するとおっしゃって、実際にその後、東葛病院で野田市内の患者さん数名を水俣病と診断されました。



大月書店　定価2,970円（税込）

日本神経学会の誤回答

多くの被害者の検診を私たち民間のスタッフが継続し、認定されない患者の裁判に協力しています。裁判において、国と日本神経学会は信じがたい行動に出ました。

会員の知らないうちに、神経学会が2018年10月31日に水俣病裁判の被告である国の証拠資料として「メチル水銀中毒症に係る神経学的知見に関する意見照会に対する回答」を出したのです。その回答では、神経専門医しか診断ができない。症状が変動することはない。慢性・遅発性の発症はないとする根拠のないものでした。

医学的な検証をしてきた私たちは「チーム・ミナマタ」を結成し、日本神経学会の回答の誤りを再三指摘してきました。

メチル水銀中毒症の真実

医学教育では、メチル水銀による中毒症状は、急性劇症型の麻痺や痙攣、ハンター・ラッセル症候群という感覚障害・視野狭窄・構音障害・難聴・失調が出現するとされ、教科書にもその通りしか書かれていません。実際はもっと裾野の広いものです。

チーム・ミナマタでは真実を伝えることが必要だと考え、高岡滋医師が「水俣病と医学の責任　隠されてきたメチル水銀中毒症の真実」という書籍（大月書店、2022／12発行）を出版しました。メチル水銀曝露地域で疫学上明らかな感覚障害の発生を示し、それが中枢神経細胞の「間引き脱落」によると示しています。

また、この書籍では、なぜ大学教授らが臨床調査研究から退き、国の指示に従って厳しい診断基準を容認してきたのかを解明しています。裁判で国側の証人として出廷した神経内科の専門医が「水俣病患者を診たことがない」と証言しました。知識のない医師に正しい診断は下せません。

許容量＝がまん量

メチル水銀はプラスチックの製造過程で作られました。おりしも高度経済成長期で需要が高まっており、国は汚染を止めるより経済発展を優先させました。公害が指摘されてから排出基準が作られました。ここでも専門家が隠蔽に協力させられています。「許容量」という考え方です。

「ダイオキシンは煙突を高くすれば地表には薄まって届くから大丈夫。」福島でトリチウムを含む汚染水を「40倍に薄めれば基準値以下になるから問題ない。」こんな言葉は信じられません。経済発展の犠牲となった水俣病の被害者は私たち自身です。そして環境を汚染している加害者も私たちです。

人類は「トイレなきマンション」になっている地球で自分たちの作り出した毒性物質のコントロールに真剣に取り組まなければなりません。互いに戦争などしている場合ではありません。

聴診器

人間はこの地球上で一番賢いのかふと疑問に思った▼なぜ同じ人間どうし、いつまでたっても戦争をやめないのか▼人間以外に殺し合いをしている生き物がほかにいるのか▼人間は、お洒落な「服」をもったしかっこいい「車」便利な「スマホ」も持った▼あとほしいものは何▼殺し合いまでしてほしいものは何▼人間以外の生き物は「富」なんて必要のないものではないか▼なぜ人間だけが「富」を求めるのか▼「富」を求めるがために「富」を奪い合うために殺し合いをやめないのか▼「富」をもてばそこに権力と支配・従属の関係が生じてしまう▼いきついた先が「経済格差」「気候変動」…「戦争」ではないのか▼これからも経済成長と技術革新が続けば人間は今以上に豊かになる▼こんな言葉を信じている人はまだいるのだろうか▼人間は他の生き物には無いものを持っている▼コミュニケーションツール「言葉」だ▼なぜ人間は「言葉」を持つことができたのにいつまでたっても安心して暮らせる世の中にならないのか　（奥）